

船舶事故調査報告書

平成29年3月2日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 庄 司 邦 昭（部会長）
 委員 小須田 敏
 委員 根 本 美 奈

事故種類	乗組員死亡
発生日時	不明（平成28年6月19日 10時00分ごろ～10時32分ごろの間）
発生場所	不明（琵琶湖南部（滋賀県草津市北山田漁港南南西～南西方沖））
事故の概要	プレジャーボート ^{サックド アップ} sucked upは、航行中、船長が落水して死亡した。
事故調査の経過	平成28年6月20日、本事故の調査を担当する主管調査官（神戸事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者からの意見聴取は、本人が本事故で死亡したため、行わなかった。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	プレジャーボート sucked up、0.4トン 240-60886愛知、個人所有 3.55m (Lr) × 1.67m × 0.66m、FRP ガソリン機関、22.10kW、平成20年2月
乗組員等に関する情報	船長 男性 30歳 二級小型船舶操縦士 免許登録日 平成27年1月19日 免許証交付日 平成27年1月19日 (平成32年1月18日まで有効)
死傷者等	死亡 1人（船長）
損傷	なし
気象・海象	気象：天気 雨、風向 北北西、風力 2、視界 良好 水象：湖上 平穏、水温 約25℃
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、平成28年6月19日06時45分ごろ草津市志那 ^{しな} 漁港を出港するところを船長の友人（以下「目撃者A」という。）に目撃された。 目撃者Aは、近江大橋北方沖で漂泊して釣りをしていたところ、約200m離れたところで漂泊して釣りをしていた船長が、10時00分ごろ釣りをやめて北進するところを目撃した。 本船は、10時15分ごろ北山田漁港南西方沖で旋回しているところを琵琶湖南部を南進中のプレジャーボートの船長（以下「目撃者B」という。）に目撃された。

	<p>目撃者Bは、不審に思って本船に接近し、10時32分ごろ本船が無人の状態であることを確認して110番通報を行った。</p> <p>目撃者Bは、本船の周囲に落水者がいないか探していたところ、救命胴衣、レインコート及びサンダルが浮いているのを発見し、回収した。</p> <p>本船は、旋回しており、警察の警備艇が接近することができなかったため、燃料が無くなった後、北山田漁港へえい航された。</p> <p>船長は、警察の警備艇、消防の救助艇及び本船の保管施設会員のブレッジャーポートによって捜索が行われた結果、21日10時41分ごろ本船が旋回していた付近の海底（水深約2.5m）で警察の潜水士により発見され、溺水と検案された。</p> <p>（付図1 事故発生場所概略図 参照）</p>
<p>その他の事項</p>	<p>本船は、船体等に衝突の痕跡は見られなかった。</p> <p>船長は、平成26年ごろから月に1～2回琵琶湖で釣りを行っていた。</p> <p>本船は、発見時、スロットルレバーが全開の約8割のところまで固定されており、緊急エンジン停止コードが使用されていなかった。（写真1、写真2参照）</p> <div data-bbox="724 1025 1251 1536" data-label="Image"> </div> <p>写真1 本船</p>



写真2 緊急エンジン停止コードを使用したときの状況

目撃者Aは、船長が出港時にレインコート及び救命胴衣を着用しているところを目撃していた。

船長の携帯電話は、発見されていない。

船長は、本事故当時、健康状態は良好のようであった。

目撃者A及び本船の保管業者担当者は、船長が発見された際、救命胴衣、レインコート及びズボンを着用していなかったため、落水後、近くの岸まで泳ごうとしたのではないかと思った。

分析

乗組員等の関与
船体・機関等の関与
気象・海象等の関与
判明した事項の解析

不明
不明
不明

船長の死因は、溺水であった。

本船は、10時00分ごろ近江大橋北方沖で釣りをやめて北進を開始するところを目撃された後、10時32分ごろ北山田漁港南西方沖で無人の状態を旋回しているところを発見されたことから、この間において、琵琶湖南部を航行中、船長が落水したものと考えられるが、落水した状況を明らかにすることはできなかった。

船長は、落水して溺水したものと考えられるが、溺水に至った状況を明らかにすることはできなかった。

原因

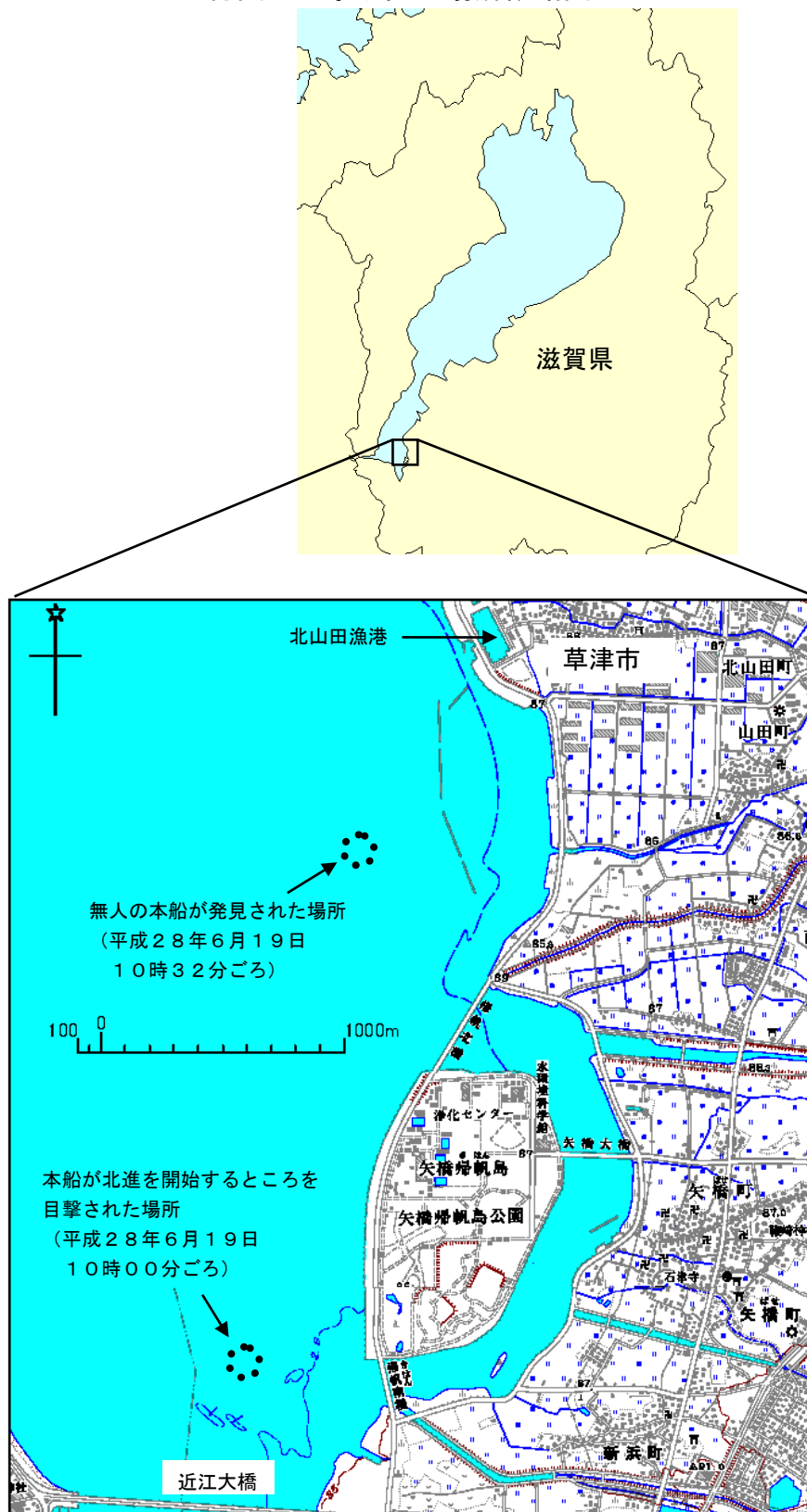
本事故は、本船が、琵琶湖南部を航行中、船長が落水したことにより発生したものと考えられる。

参考

今後の同種事故等の再発防止及び被害の軽減に役立つ事項として、次のことが考えられる。

- ・ 緊急時に備えて緊急エンジン停止コードを使用すること。
- ・ 防水型の携帯電話等を常に身に付け、落水した際の連絡手段を確保しておくことが望ましい。

付図1 事故発生場所概略図



国土地理院 2万5千分の1地形図使用